

① 目的

下関市の子育て支援施策の更なる充実を図るため、先進的な民間および公立施設、専門的支援モデル、ならびに国の中枢機関であることも家庭庁への視察を通じて得られた知見を体系的に整理し、下関市が取り組むべき具体的かつ実行可能な政策提言を行うことを目的とする。

② 視察概要（パソナフォスター訪問）

日時：令和7年7月1日（火）12：45～15：30

会場：（株）パソナフォスター（東京都港区青山3-1-30 PASONA SQUARE）

株式会社パソナフォスターは、「未来ある子どもたちを育むこと」を使命とし、保育園、学童クラブ、ベビーシッターといった多岐にわたるサービスを全国で展開する大手民間事業者である。同社の事業特性として、人材活用の多様性と柔軟性の高さが挙げられる。保育士、学童スタッフ、調理員、看護師、英語講師、ベビーシッターなど、多様な職種の採用を常時行い、変動する子育てニーズに対応できる人材プールを確保している。

また、同社の事業展開における重要な戦略の一つが、「空き施設の活用」である。自治体の取り組みから企業へと広がるこの空き施設活用の可能性を提案しており、初期投資を抑えた迅速なサービス展開手法として注目される。

③ 視察概要（港区立青南小学校 学童施設／放課 GO 視察）

日時：令和7年7月1日（月）15：30～16：30

会場：港区青南小学校学童施設／放課 GO（東京都港区青山4-21-15）

港区青南小学校学童施設は、公立小学校の施設を最大限に活用した、地域連携型の多機能放課後支援モデルである。この施設は「放課 GO→クラブ」（全児童対象の自由な居場所・活動の場）と「学童クラブ」（就労家庭等の児童を長時間預かる登録制クラブ）という、性質の異なる二つのサービスを小学校施設内に併設する一体型運営を採用している。

利用時間に関して、放課 GO→クラブは学校のある日の放課後から17:00までを提供するのに対し、学童クラブは平日放課後から19:00まで、土曜日や学校休業日（平日）は8:00から19:00までという長時間の預かりに対応している。

この二階建て構造により、全ての子どもに安全で健やかな居場所を提供しつつ、集中的な預かりニーズを持つ家庭のサポートも実現している。運営においては、学校や地域との合同行事を積極的に実施し、連携して子どもたちの元気で安全な活動を支える体制が確立されている。

④ 視察概要（キッズハーモニー・よよぎの杜視察）

日時：令和7年7月2日（水）9：00～10：30

会場：キッズハーモニー・よよぎの杜（東京都渋谷区代々木2-35-1）

キッズハーモニー・よよぎの杜は、2016年に開園され園舎は全体的に木の温もりを大切とした造りとなっており、旧渋谷代々木小学校の校舎をリノベーションして活用している。

「子ども主体の保育」を掲げており、遊びや制作など子ども自身で選択することを重視している背景として、自分の意思で物事を判断し、責任の取れる大人になって欲しい、また、問題に直面した時に乗り越える力を身につけて欲しいといった願いが込められている。

#### ⑤ 視察概要（渋谷本町学園小学校 放課後クラブ視察）

日時：令和7年7月2日（月）10：50～11：30

会場：渋谷本町学園小学校 放課後クラブ（東京都渋谷区本町 4-3-1）

渋谷本町学園小学校 放課後クラブは、小中一貫校の渋谷本町学園に隣接しており、1年生～6年生まで、約200名の児童が利用する大規模施設であり、1階の多目的室は地域に開放されていることから、地域との関わりや交流が深く、住民にとっても身近な施設である。

利用人数が多いため、「みんなが楽しく過ごすために、自分はどうすれば良いのか」を子どもが考え行動することで社会性が育まれる活動を重視している。

#### ⑥ 視察概要（こども家庭庁との意見交換）

日時：令和7年7月2日（月）14：00～15：00

会場：衆議院第一議員会館（東京都千代田区永田町 2-2-1）

国の動向や地方自治体が直面する課題及び、子ども・子育て支援法に基づく各種施策などについてこども家庭庁と意見交換を実施した。

#### ⑦ 考察

この度の視察を通じて、下関市が直面する主要課題に対する解決策を得ることができた。一つは、公共施設等の遊休資産活用によるインフラ整備の加速化であり、もう一つは、民間活力を導入した子育て施策の充実である。

本市は、少子化や人口移動に伴う学校や公民館などの公共施設の統廃合、あるいは既存施設の利用率低下という課題に直面している。この遊休資産化リスクに対し、パソナフォスターが取り組む「空き施設活用」の戦略は、新規建設に比べて圧倒的に迅速かつ低コストで保育・学童インフラを整備できるソリューションとなり、遊休施設の活用と子育て環境を同時に向上させることが可能となる。

また、本市は、令和8年度に向けて放課後児童クラブの民間委託の拡充が進められているため、多様な民間事業者が参入することにより、民間独自のノウハウを活かした保育等が可能になると共に、事業者の競争原理が働き、質の向上に寄与していることも参考になった。

少子高齢化が進む中でも子育てニーズは年々増加しており、育児と子育ての両立支援はもとより、第2子以降を生ま育てようと思える土壌作りは今後ますます重要になる。多様な選択肢を提供することで、都市間競争が進む中においても、子育て世帯に選ばれるまちとなり、将来的な地域活性化と移住、定住等へ直結する政策的成果をもたらすことになる。